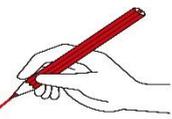


Move Mountains

5年生通信

7月9日43号



○一文書くと次の一文が浮かんでくる～作文の第一歩～

コンクールの季節がやってきました。つまり、世間では夏休みが近づいてきました。これでもか！というくらい学校には各種コンクールのお知らせが届きます。

国語担当ですので、作文コンクールに限定して筆を進めてまいります。

各種コンクールのお知らせを見ていて思うのは「すごくハードルが下がった」です。

例えば「読書推薦文コンクール」（主催：博報堂教育財団）は、「本を人にすすめる文章」を書くのですが・**詩集・図鑑・写真集・漫画でも可**となっています。ようは、読書感想文に近いと思うのですが、選書の幅が広いだけで、やってみようと思えそうですね。

ちなみに、文字制限は**300字**。400字詰め原稿用紙よりも短いので、気軽に書いて、推敲を重ねられそうです。5年生は、団体応募します。

「**映画感想文コンクール**」（主催：全国感想文コンクール実施委員会）や、「**マンガ感想文コンクール**」（主催：一般財団法人出版文化産業振興財団）もあります。

夏休みの宿題、最強の敵＝読書感想文…なんて思われがちなのですが、文章を書こうと思わせるコンクールが増えてきました。

とはいえ、文章を書くことの極意を知らなければ、作文への抵抗感は増すばかりです。

極意それは…

一文書くと次の一文が浮かんでくる

ことを私も実感したアクティビティがあるので紹介します。

元の実践は、「R80（アールエイティー） 自分の考えをパッと80字で論理的に書けるようになるメソッド」です。

ルールは2つ

- ・2文構成80字
- ・2文目の最初に接続詞を使う

これだけです。



